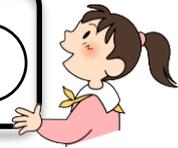


吃音の理解と支援①



「吃音」というと、最近ではテレビや新聞で取り上げられることもありますが、まだまだ社会全体には知られていないものと言われています。

そこで、「吃音のある子の理解と支援」として、話し方（吃音など）で困っている子どもたちにどんな支援・配慮をしていったらいいのか、その実践例やヒントを一部ご紹介します。

「吃音」とは

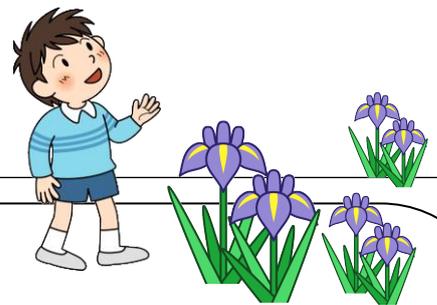
- ・「ぼ、ぼ、ぼ、ぼくが」など、ことばの一部を繰り返す。
- ・「あーした」など、ことばの一部をひきのばす。
- ・「・・・っおかあさん」など、ことばがつかまって話し出せない。
- ・「があっこうでね」など、ことばの一部に不自然な力が入った話し方をする。

など、ことばがなめらかに出不ない状態を言います。

また、「えーと」「あのね」などを不自然に多く使ったり、話し方が不自然に早くなったり遅くなったりすることもあります。

ことばがスムーズに出ないと…

- ・体の一部に力が入りすぎる。
- ・首や手、足などを動かして話す。
- ・不自然な息継ぎをする。 などの様子も見られます。



授業では

○指名の仕方

- ・子どもたちの中には、「順番に指名された方が心の準備ができる。」と考えている場合や、「順番に指名されると緊張するからランダムがいい。」と考えている場合などがあります。
- ・2人組や一斉に声を合わせる場合にはスムーズに話しやすくなるので安心して答えたり、読んだりすることができます。

○課題の配慮

- ・かけ算九九や音読など、早く正確に言わなくてはいけない場面では、緊張してことばが出なくなったり、繰り返しが多くなったりすることがあります。その子の話し方に合わせた評価が大切です。

○話の聞き方

- ・どの子にとっても話し方を指摘されるのは自己肯定感を下げてしまう恐れがあります。
- ・吃音のある子の場合は、「言い終わるのを待ってほしい。」「つまってしまった時は代弁してほしい。」など子どもによって考えが様々なようです。子どもと相談し、共通理解を図っておくとよいようです。

☆子どもによって、話しにくさや考えていることは様々です。ここで紹介したのはごく一部の例です。その子どもに合った方法を、話し合ったり探ったりしていくことが大切です。また周りにはいる人が吃音を理解して肯定的に受け入れる環境であることは大切です。（支援方法など早く相談したい方は、担当までお申し出ください。）

